


高知県歯科医師会長 野村 和男
学術部長 西岡 政道


令和 6 年度第 1 回高知県歯科医師会学会開催ご案内

清涼の候、益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

さて、標記の学会につきまして、別添プログラムのとおり開催する運びとなりました。
また、今回の開催形式につきましては、講師のご厚意により、会場受講、四万十市社会福祉センターにインターネットを通じてサテライト中継、また Web 配信も実施いたします。

つきましては、裏面の申し込みをご確認の上、会員並びにスタッフの方々、多数ご出席くださいますようご案内申し上げます。

記

1. 日 時： 令和 6 年 11 月 10 日（日） 9：30～13：10
2. 場 所： 総合あんしんセンター 3 階 大会議室（高知市丸ノ内 1 丁目 7 番 45 号）
中継会場： 四万十市社会福祉センター 研修室 I（四万十市右山五月町 8 番 3 号）
Web 配信： Zoom ウェビナー
3. 持 参 物： 会場及びサテライト会場でご出席の際には、別添プログラム及び日歯生涯研修事業 IC カードを必ずご持参ください。
4. 駐 車 場： 一般の方々もご利用されますので、会場受講の場合は公共交通機関のご利用、または乗り合わせにてご来館くださいますようお願い致します。

尚、準備の都合上、10 月 31 日（木）迄に URL または二次元バーコードよりお申し込みをお願いいたします。

令和6年度第1回高知県歯科医師会学会 参加申込

日時：令和6年11月10日（日）9：30～13：10

場所：総合あんしんセンター3階 大会議室

中継：四万十市社会福祉センター 研修室 I

配信：Zoom ウェビナー

【URL】 <https://forms.gle/uJgKqdoXb1Pu5xR6A>



①左記 URL または二次元コードにアクセスしますと、事前登録サイトに繋がります。

②必要事項を入力いただき受講の登録をお願いいたします。

※開催日が近づきましたら、ご登録いただいたメールアドレス宛に視聴方法や Web 配信受講に必要な招待情報を送信

いたしますのでアドレスのご入力にお間違いのないようお願いいたします。

※日歯生涯研修事業単位の登録につきましては、後日、登録用の URL（二次元バーコード）をご登録いただいたメールアドレス宛に送付いたしますので、必要事項を入力の上、申請登録をお願いいたします。

申込締切：令和6年10月31日（木）迄

令和6年度

第1回高知県歯科医師会学会

- 令和6年11月10日(日) 午前9時30分～
- 高知県歯科医師会館 会議室1・2 [メイン会場]
- 四万十市社会福祉センター 研修室I [中継会場]

「エンドの基本を見直そう」 鈴木 規元 先生

「歯内療法立場から歯性上顎洞炎を再考する」

浦羽 真太郎 先生



高知県歯科医師会会長

野 村 和 男

深秋の候、会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

第4期目を迎えました現執行部もあと残すところ半年余りとなりました。任期満了まで役員・事務局一丸となって、日々邁進して参る所存で御座います。御存知の通り、6月の診療報酬改定は大きく変わりました。スタッフの待遇改善の為のベースアップ評価料が新設され、CAD/CAM冠の適応範囲が拡がり、脱金属の傾向がより鮮明になりました。特に「口管強（小児口腔機能管理料の注3に規定する口腔管理体制強化加算）」は従来の「か強診」よりも更に見直し評価されており、上手く活用することで大幅な点数アップが期待出来る様になっています。先生方におかれましては、これらの項目を是非有効に御活用いただき、稼働率向上と医院経営の安定に繋げていただければと思います。

さて、今回の改定では、歯内治療関連も僅かずつではありますが点数アップされています。そこで、令和6年度第1回高知県歯科医師会学術講演会では、「エンドの基本を見直そう」「歯内療法の見直しから歯性上顎洞炎を再考する」の演題で、昭和大学歯学部歯科保存学講座歯内治療学部門教授の鈴木規元教授と浦羽真太郎助教にご講演をお願いいたしました。歯内治療は日常的に行われる処置ではありますが、マイクロスコープやCBCT・NiTiファイル等、新しい器材の進歩がめざましく、これらの一部は保険収載もされるようになりました。しかし、基本あつての最新機器であり、基本的手技や考え方を十分理解・実践することにより、エンドの成功率を飛躍的に向上させることは十分可能です。一方、上顎洞は耳鼻咽喉科と歯科の境界領域であり、今後ますます連携が求められる場面があります。また、歯科の中でもエンド・口腔外科・インプラント等、専門領域によって色々な見方があります。今回はエンドの視点から、上顎洞に関する新しい知見がうかがえる貴重な機会となることと存じます。

会員の先生方におかれましては、多数のご聴講を賜り、是非とも明日からの診療に実践して頂きますよう、よろしく願いいたします。

最後になりましたが、鈴木先生・浦羽先生にはご多忙中にもかかわらずご来高下さり、ご講演していただくことを、会員を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

プログラム

日時 令和6年11月10日(日)

会場 高知県歯科医師会館 会議室1・2〔メイン会場〕
四万十市社会福祉センター 研修室I〔中継会場〕

司会 高知県歯科医師会学術部副部長

河合 竜 佐

開 会 9:30

高知県歯科医師会学術部部长

西岡 政 道

挨拶

高知県歯科医師会会長

野村 和 男

講演1 9:50 ~ 11:20

演 題 エンドの基本を見直そう

講 師 昭和大学歯学部歯科保存学講座歯内治療学部門 教授

鈴木 規元 先生

休 憩 11:20 ~ 11:30

講演2 11:30 ~ 12:30

演 題 歯内療法の立場から歯性上顎洞炎を再考する

講 師 昭和大学歯学部歯科保存学講座歯内治療学部門 助教

浦羽 真太郎 先生

シンポジウム 12:35 ~ 13:05

閉 会 13:05 ~ 13:10

高知県歯科医師会副会長

依岡 弘 明

- 時間厳守で開始致しますので、よろしくお願いいたします。
- この学会は特別研修に相当します。
- この学会は撮影は禁止となっております。

講演

プロフィール



すずき のりゆき
鈴木規元先生

略歴

- 1994年3月 東京医科歯科大学歯学部卒業
- 1998年3月 東京医科歯科大学大学院歯学研究科歯科保存学専攻修了
- 1998年4月 東京医科歯科大学歯学部附属病院第三保存科医員
- 2002年4月 日本学術振興会特別研究員(PD)
- 2003年10月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯髄生物学分野助手
- 2005年4月 Department of Cytokine Biology, The Forsyth Institute (Boston, USA), Research scholar
- 2007年4月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯髄生物学分野助教
- 2016年4月 昭和大学歯学部歯科保存学講座歯内治療学部門講師
- 2017年2月 昭和大学歯学部歯科保存学講座歯内治療学部門准教授
- 2017年4月 昭和大学歯科病院歯内治療科診療科長
- 2020年4月 昭和大学歯学部歯科保存学講座歯内治療学部門教授

エンドの基本を見直そう

昭和大学歯学部歯科保存学講座歯内治療学部門 教授

鈴木規元

抄録

歯内治療の分野は、実体顕微鏡やコーンビームCTの導入、NiTiファイルの進歩などによって、近年大きな進化を遂げてきました。それに伴って、最近ではエンドブームと言われ、歯内治療に関する講演会や書籍など、歯内治療の最新の話題に接する機会も増えてきており、歯内治療の専門性は以前より高まってきているように思います。しかし、これらの最新器材を使用しても、歯内治療の基本はやはり無菌的処置と徹底した根管内の清掃であることに変わりはありません。これらの基本的な治療手技に関しても、我々が学生教育を受けた時代のものとは異なってきています。本講演では、なかなか話を聞く機会が少ないと思われる歯内治療の基本的な手技や考え方について、現在のスタンダードといえる方法を改めて確認していただいたうえで、大学病院での症例をもとに、難症例への対応についてもご紹介させていただきたいと思います。先生方の日々の臨床に、少しでもお役に立てれば嬉しく存じます。

講演

プロフィール



うら ば しんたろう
浦 羽 真太郎 先生

略 歴

- 2011年3月 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
- 2016年3月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
歯髄生物学分野 博士課程修了
- 2016年4月 東京医科歯科大学歯学部附属病院むし歯外来医員
- 2017年4月 昭和大学歯学部歯科保存学講座歯内治療学部門助教
- 2021年1月 昭和大学歯科病院歯内治療科診療科長補佐

歯内療法の見方から歯性上顎洞炎を再考する

昭和大学歯学部歯科保存学講座歯内治療学部門 助教

浦 羽 真太郎

抄 録

複数の診療科の守備範囲が重なる部分における疾患はその扱いが難しい。どの診療科が担当するのがあやふやになりやすく、その結果適切な対応を取れずに慢性化・難治化してしまうことも少なくない。上顎洞という構造もその例に漏れず、耳鼻咽喉科と歯科の両方の診療科が関与しているが、本邦では特に医科と歯科が明確に分かれていることから、互いの診療科における常識やスタンダードが理解されにくいという問題があるのではないだろうか。さらに、歯科の中でも口腔外科やインプラント科（補綴科）、歯内治療科など上顎洞に関連する科は複数あり、このことも上顎洞における疾患に対する理解を難しくしていると言えよう。このような状況で、適切な診断・治療を実践するためには、上顎洞という構造について熟知することはもちろんであるが、歯科は耳鼻咽喉科の、耳鼻咽喉科は歯科の治療の実情を正しく理解することに努め、治療のゴールを適切に定めることが大切である。

本講演では、「歯内療法の見方から歯性上顎洞炎を再考する」ことを目標に、上顎洞における疾患の代表例とも言える上顎洞炎に対しどのようにアプローチすればよいか、また耳鼻咽喉科との連携をどのようにして行っていくべきかについて、実際の症例を交えて解説を行いたいと思う。

— 日歯生涯研修事業ICカードをお忘れなく —